

平成29年度 第1回 大衡村総合教育会議 議事録

日時：平成29年11月14日（火）

午前10時から

場所：大衡村役場 2階 会議室

○出席者：大衡村長 萩原達雄，教育長 庄子明宏，教育長職務代行者 高橋健正，
教育委員 渡邊勇，教育委員 鎌田澄子，教育委員 齋藤さと子
教育学習課長 八巻利栄子，生涯学習担当課長 文屋寛，係長 三塚麻紀
総務課長 早坂勝伸，主査 千葉岳史（書記）

1. 開会（進行：総務課長 早坂勝伸）

開会時刻：午前10時

2. 挨拶（大衡村長 萩原達雄）

〔省略〕

3. 協議…大衡村総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により村長が議長となり進行する。

（1）平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

<萩原村長>それでは暫時、議長をつとめさせていただきます。協議の（1）平成29年度全国学力・学習状況調査結果について、八巻課長より説明をお願いします。

<八巻課長>それでは、資料1ページをご覧ください。平成29年度全国学力・学習状況調査が4月に行われましたが、大衡村の結果についてご報告申し上げます。小学校からご説明します。今回、国語と算数において、知識に関するA問題、活用に関するB問題ということで調査が行われました。まず、国語につきましては、A問題、B問題とも県、全国の平均を下回っております。特に、国語Aの知識に関する問題で「話すこと、聞くこと」の領域が大きく下回ったという結果でございます。算数につきましては、A問題、B問題とも県、全国の平均を下回っております。（2）は、教科に関する調査と同時

に、質問紙で児童に関する質問を行っていますが、それをまとめたものです。まず、この中で、県、全国の平均を上回っているもの、白丸の部分についてお話いたします。大衡の子どもたちは、特に「地域の行事に参加している」という項目について、県、全国の平均を大きく上回っております。それから「将来の夢や目標を持っている」「家の人は学校行事に来る」「学校に行くのは楽しい」「学校で友達に会うのは楽しい」と答えた子どもたちの割合が県、全国の平均を上回っております。また、黒い三角、平均を下回っているものとしては、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という項目で「そう思う」と答えた子どもの割合が、若干下回っているのが気になりました。「どちらかといえばそう思う」を加えると大差はありませんが、絶対にいけないことだと思う「そう思う」という一番肯定的な意見を選んだ割合が少ないというのが気になったところでした。また、「1日あたりテレビを4時間以上見る」と答えた児童の割合が非常に高いということになっております。イコール家庭学習の時間が短いということにつながるのかと思っております。対策といたしましては、学校から挙げていただいたものでは、読書活動の推進、すなわち毎月15日を読書の日と定めて読書活動を推進し、国語力を高めるといふことと、現在、県の学力向上の指定を受けて28年度からやっておりますが、そちらを活用し、算数の学力向上に向けた取り組みを継続してやっていくということです。今月21日に中間公開が行われますので、そこでも何らかの成果を見ることができないかと思っております。また、教育委員会が進めておりますICT活用事業で、ICTの導入を進めておりますので、そちらも活用していただいて、各授業の改善を図るといふことと、全学年において、算数などでも読む文章問題がありますので、読む力を高めるといふこととでございます。

続きまして中学校についてです。中学校の教科についての結果は、小学校同様A問題、B問題とも国語で県・全国平均を大きく下回りました。特に、

「言語文化と特質」の領域は下回っておりまして、記述式の問題の無回答の割合が高いことが挙げられます。数学につきましても、A問題、B問題ともに県・全国の平均を下回っておりますが、国語と同様に証明問題や説明を求められる問題について、無回答の割合が高いということが気になります。生徒質問紙の調査結果につきましては、まず県・全国の平均を上回った項目につきましては、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」といった項目です。逆に、下回った項目につきましては、小学生とも共通しているところですが「1日あたりテレビを4時間以上見る」生徒の割合が非常に高くなっております。特に、中学生ではスマートフォンの所持率が高く、

利用時間が長い、2時間以上3時間未満と答えた生徒の割合が高くなっており、こちらもイコール家庭学習時間が短いということにつながっているものと思います。対策といたしましては、各教科、特に国語、数学において対策を出していただいております。資料に記載のとおりです。朝の時間を活用して基礎力の定着のためにドリル学習を継続して行っていくということです。また、家庭学習の時間が非常に少ない、家庭でテレビを見る時間やゲームをする時間が長いということで、生活リズムを含めた家庭学習に関する保護者への啓発、呼びかけを行うということと、現在、県の委託事業として「学び支援事業」を放課後や長期休暇中に行っておりますが、そちらを活用して自主的な学習習慣の定着を図りたいと考えております。

2ページをご覧ください。表記が漏れており、申し訳ありません。上が大衡小学校です。下が大衡中学校のグラフになっております。ここ5年間の全国学力・学習状況調査の正答率の推移になります。上のグラフでは、青が大衡小学校、オレンジと黄色が全国、県となっております。各学年の特色、カラーもありますので一概には言えませんが、小学校、中学校ともどちらとも県、全国の平均にはまだもう少し差があるのかなという状況です。この後も学力向上に向けて働きかけをしていきたいと考えております。以上です。

<萩原村長>はい。ただいま、全国学力・学習状況調査の結果について、八巻課長から説明がありました。この件について、みなさんからご意見、あるいは所見などがありましたら、お願いしたいと思います。

<渡邊委員>小学校のほうで「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」これが少ないというのはどういう考えなのでしょう。

<八巻課長>肯定的な回答は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の二択、否定的な回答が、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という二択で、全部で四択なんです。が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた数値としては高くなっております。しかし、「そう思う」という一番肯定的な回答の割合は、県・全国の平均と比べると5ポイント以上下回っておりますので、「そう思う」けど…というところがあるのではないかと考えます。

<渡邊委員>「いじめは悪いことなんだよ」ということを先生方が教えていないという部分があるんですかね。「絶対ダメなんだよ」ということで子どもに教えていければ、ポイントは上がってくると思う。教えなければ子どもたちはわからな

いので、やっぱり下回るものです。そういう考える力を付けていくことが、いじめをなくす一つの方策だと思います。

<庄子教育長>学校ではいじめ問題についてはだいぶ前から取り組んでいて、職員、学校教員としては確実に指導していると思います。大小にかかわらず、どんないじめでも「いじめはダメなんだよ」と。関わった状況で「やられたからやったんだ」といった部分が出てきたときに、児童生徒間のわだかまりというのが中にはあるのではないかなと思います。

<萩原村長>そのほか、ございませんか。

<庄子教育長>付け足しです。本年度、小学校も中学校も成績が低下しているということですが、中学校も小学校もそうですが、ずっと同じ学年の人が学力調査を受けた結果ではありません。その年度の3年生、6年生ということですので、その学年の学力が上がったということがないわけではありません。また、今年の中学3年生は、合唱コンクールへの取り組みとか、部活動の成績が非常によいこともあるので、一概に調査の結果だけで学力について言えない部分もあるのではないかと思います。

<萩原村長>この学力の件ですが、学年によって違いがあり、今年度は低かったということだったが、学年によって波があるのかと。あと学年によっていじめがあったり、なかったりするその波もある。校舎のガラスを壊したとかが昔はあった。今、そういうことがあるかどうかはわからないが、昔はあった。荒れた学年があった。荒れてる学年の上はどういう訳か全然荒れていない。ずっと荒れていると大変なことになるが。往々にして昔はそういうことがあった。この折れ線グラフの学力を見るとだいぶ下である。大丈夫かなと思う。

<高橋職務代行者>全国と宮城県は同じような形だが、大衡村はかけ離れている。

<渡邊委員>28年度は少し近かったが、下回っている。国語Bは全国に近かったが、また離れた。いずれにしても、低いことは間違いない。

<萩原村長>豊里では県内でいち早く小中学校一貫校に取り組んだ。その時の教育長が「宮城県で登米郡の学力が非常に低い。その低い中の登米郡で豊里がさらに低い」ということで一貫校にして、小学校に英語を取り入れた。合併する前だったが、すばらしい発想、考えを持った方だった。

学力を向上させるために、何かをやるといっても、大衡は学校が一貫校と同じようなものである。一村一校である。場所が違うけれども。

<渡邊委員>生徒数にもよるんでしょうかね。秋田の東鳴瀬村は生徒数が少ないんですよね。少ないから教え方もいいんですよね。やっぱり、生徒数が少ないと教え方も違うんだと思います。大衡はどちらかという生徒数が多いわけではないので、もう少し学力が上がってもいいと思うんですが。

<鎌田委員>学力向上については、今までもいろいろと努力をされてきてはいるが、なかなか学力が向上しない。中学校になったからといって、すぐに学力が向上するわけではないので、やはり小学校の低学年のうちから、理解力だったり、読書活動を推進することが必要だと思う。15日の日に本を読む、ただ読むだけじゃなく、読むことについての感想だったり、それを評価するなり、そしてその評価された内容について「こういう文章表現をすればこういう評価」「こういうふうな書き方もあるんだ」と自分で気が付くと思う。先ほど渡邊委員が東鳴瀬村のお話をされましたけれども、みんなの目に触れることによって「こういう表現の仕方もあるんだ」ということをどんどんさせていくことができる。すでに取り組んではいっていると思うが、そういう部分は大事であると思う。人数が多い少ないにかかわらず、「こういう感想があるんだ」「こういう表現があるんだ」と目に触れる勉強の仕方というのが、東鳴瀬村に行ったときに、できる人もできない人もみんな、というのがいいことだなということを感じたので、少しずつでも今までやってきたことの中にプラスしていただくとよいと思う。学力はすぐには向上しないので、少しずつの積み重ねで、小学校までの間で少しずつやれたらなと思います。仙台市とかの場合ですと、学習塾に通っている人たちとかが多いので、大衡の場合はそういった学習塾に皆さん平等にと考えたときに、放課後に地域の方々にボランティアしてくださる方に学習の支援をしてもらえるような、そういったことも考えてもいってもいいのではないかなと思います。

<萩原村長>いろいろ、ご意見をいただきました。記述式というか自分の意見を発表することが苦手、そういったことが見られるということなんだろうと思います。それから、今、鎌田委員がおっしゃったように「ものを見て批評する、意見を言う、発表する力というのがいい」と。大衡村には学習塾というものはありますか。

<庄子教育長>今現在はないと思います。大和町にあります。

<萩原村長>おそらく学習塾に通っている人はあんまりいないだと思います。でも、経済的に余裕がある、誰かが送り迎えをしてくれる人がいる場合はあるいはいるかもしれません。仙台市内などには学習塾がいっぱいあるので必ず行っているんだろうなど。その差がでてきているんだろうなどと思います。どうなんでしょう。齋藤委員、いかがですか。

<齋藤委員>学習塾ですが、我が子は3年生なんですけども、周りをみると吉岡の方に通っている子もいるんですけど、それは一部分であって、学校の中での勉強で足りないことをやっているようです。今の3年生を見ている、中学校に入ってから、この人数でこの行事をこなすのに何役もする、例えば陸上選手を出さなければいけなかったりとか、合唱コンクールがあったり、一人で背負う役がたくさんあるんですよね。その中で子どもたちが大変だなと思うか、それともいろんなチャンスがもらえて幸せだなと思うかで違ってくるし、そういうのをこなしていくと、行事が終わると集中力がついたり、一生懸命何かに物事に取り組む力がついてくると思います。3年生はこれから受験に向けてというところではあるんですけど、長い小学校生活からの積み重ねというのはなかなかないので、学習習慣をつけるためにも、必要なんだろうと感じます。

<萩原村長>一部の村民の皆さんから、「大衡村は行事ばかりが多い」という話がある。小さい村だから、大きな町や市でもやっていることを同じようにやっている、どうしても関わる人はしょっちゅう関わっていなければならなくなっている。おそらく、子どもたちもいろいろなことをしながらしているので、勉強はしなければならない、部活もしなければならない、生徒会もしなければならない。でも、そういう方は伸びてくるとは思います。重荷に感じる方はどこまでも重荷に感じると思います。今は部活優先ということはないと思いますが、もちろん身体を鍛えることはいいことだが、基本的には学校だから学習が基本だろうと思う。ということで、子どもたちは忙しい。先ほどもお話ししたように学習塾はもちろんないし、通うにも交通手段がない。そのハンデがあるのではないかと、その辺は教育長、どうなんだろう。

<庄子教育長>それはあると思います。話を元に戻して申し訳ありませんが、平成27年度から志教育ということで取り組んでおり、段階的に目標を持って生活することが大切だということで取り組んできました。その結果として、「将来の夢や目標を持って生活している」児童生徒が増加しています。という

ことは、効果が上がってきたのではないかと考えています。それがイコール学力かという別問題で、さまざまな学力向上の条件が整わないといけないと考えています。一つは教員の資質向上ということで、小学校では、職員全体で意見を出し合って取り組んでいます。中学校でも、これから仕上げしていくところです。

2つ目は、家庭での教育というのが必要だと感じています。結果にもありますが「ゲームを2時間以上する子どもが多い」とか「テレビを見る時間が長い」とか。都市部に住む子どもたちは、その時間というのは塾に行っている時間になります。都市部の子どもたちは、競争の世界が強いと言われています。子どもたちの優先の基準が違うんです。親が教員だったり、医者だったり、会社の社長だったりするので、非常に学力が高い。大衡は一諸くたにはできないと考えています。家庭の協力ができないということが見えてきました。学力の結果というのは、子どもたちの学力の平均を出しているわけですが、それが高めている部分もあるが、下げている部分もないわけではないのです。一人親であっても、一生懸命やられている方はやられています、一人で育てているということはいろいろ大変な部分があるので、その辺が今後の課題かと考えています。

また、学習塾の件ですが、放課後に最大160人の小学生が児童館に来ていると館長が言っていました。その時間帯に、先ほども出てきた学び支援事業を場所を変えて、塾の講師のような方を雇ってということも考えていかなければならないと感じています。今現在、これを見ると成績は悪いのですが、教職員の力がないとは思っていません。

<高橋職務代行者>学力調査というのは国語と算数しかやらないのか。

<八巻課長>年度によって、理科が入ることもあります。基本は国語と数学、算数ですが、4～5年に1回、他教科が入ったりします。再来年度は、英語が入る予定です。

<高橋職務代行者>このAとBの違いというのは。

<八巻課長>Aが知識、基礎問題で、Bの方が活用、すなわち考える、思考力などを問う問題です。

<萩原村長>はい。いずれにしても学力向上指定校に小学校はなっていますが、その成果が十二分に今のところ、反映されていないということについては、あまり論

を待たないところでありますが、今後に期待していきたいと思います。いろいろなご意見がもちろん、あるだろうとは思いますが。

<庄子教育長>資料の1ページの小学校、中学校の教育力に言えること、家庭学習の時間について、この辺を重要視して取り組む必要があるのかなと感じています。どうすれば家庭学習に取り組んでもらえるか。なかなか学校から訴えても伸びません。例えば、毎日無線放送で「勉強の時間になりました」といったことをやらなければならないのかなど。

<萩原村長>勉強の時間は塾とかではなく家庭なんだと思います。

<高橋職務代行者>体力テストのようなことも実施しているのか。

<八巻課長>毎年、実施しています。

<高橋職務代行者>体力テストの結果をグラフにしたようなものはないのか。

<八巻課長>あると思います。抽出で全員ではありませんが、ありますので、今回は学習だけではなく、体力のほうもお知らせしたいと思います。

<萩原村長>学力の調査結果については、この辺にしたいと思います。続いて、(2) いじめ・不登校の状況についてをお願いします。あと(3) 大衡村いじめ問題対策連絡協議会等の設置についても一緒に説明をお願いします。

(2) 平成29年度いじめ・不登校の状況について

(3) 大衡村いじめ問題対策連絡協議会等の設置について

<八巻課長>はい。それでは資料3ページ、4ページになります。まず、いじめの発生と不登校の資料となっております。3ページのほうがいじめ率、いじめを受けた実人数、認知件数、解消、継続となっております。いじめはどこでも誰にでも起こり得るという観点のもと、軽微なものについても学校から報告していただいておりますので、どれも深刻な状況に至っているものではございません。4ページのほうは長期欠席、不登校のグラフとなっております。中学校につきましては、上のグラフは平成27年度、28年度、29年度の3年間の長期欠席の生徒数の推移となっております。29年度は10月までの段階で、毎月学校側から上がってきます報告をグラフにしております。下の中

学校の不登校につきましては、合計30日以上欠席した生徒のことを不登校というふうに考えておりますので、これも27年度、28年度、29年度、3カ年の推移になっております。

では、続いてということですので5ページ、6ページ、7ページにつきましてご説明いたします。現在、昨今、テレビのニュース等でもよく取り上げられております、いじめに関して、連絡協議会をはじめとして、重大な問題が起こった場合の調査委員会、それから調査委員会でどうにもならなかったような、不服を申し立て、訴えた場合の再調査委員会というものを設置するという方向で準備を進めているところでございます。別紙資料として、平成26年12月に出されました「大衡村いじめ防止基本方針」を付けております。これに基づいて、今申し上げた3つの委員会を定義するものでございます。こちらは、県のいじめ防止基本方針が平成25年12月に出されたのを受けて、大衡村として26年に作成したものでございますが、県のほうのいじめ防止基本方針が改定するのに合わせまして、大衡村のいじめ防止基本方針も改定していきたいと考えているところでございます。いじめは、大きな問題に発展しないのが一番でございますので、学校と情報を密にしながら、軽微なうちに対処し、大衡村からいじめによって命を絶つ子どもたちが出ないことを祈るばかりでございます。簡単ですが、以上です。

<萩原村長>はい、今いじめについて、あるいは不登校について、いろいろ説明していただきました。これについて皆さんの方からご意見などございませんか。

<萩原村長>長期欠席というのは、何日未満をいうのか。

<八巻課長>不登校は、30日以上欠席すると不登校と数えられます。上のグラフの長期欠席数というのは、その月の出席日数のうち半数以上休んだ生徒についてあげていただいております。その月にたまたま何かの理由があって、多く休んでしまったということもここにあげておりますが、それ以外に休まなければ不登校としては数えられません。下は、30日以上休むと自動的に数えられます。

<萩原村長>連続して30日以上休むと不登校になるのか。

<八巻課長>連続ではありません。30日休むと不登校として数えられますので、増えていってしまいます。毎月5日ずつ休んでも6ヶ月経てば不登校に数えられてしまいます。

<渡邊委員>長期欠席に病気も含まれるのですか。

<八巻課長>入っております。

<高橋職務代行者>それは県でも同じなのか。

<八巻課長>県についても30日以上というのは同じです。集計されているのは30日以上休んだ数になっております。

<萩原村長>では、3月になると累積されるので、3月まで増えるということか。

<八巻課長>はい、毎月3日ずつ休めば10か月で30日を超えてしまいます。

<萩原村長>今現在、全く学校来ていない生徒は何人くらいいるのか。

<八巻課長>現在、全然学校に来ていない生徒はおりません。

<萩原村長>では、どういうことなのか。

<八巻課長>別室登校といって教室には入れないけれども、遅れてきたりして、教室ではなく別室で何時間か勉強をして帰ったり。そういう子どももおります。

<萩原村長>それは出席したことになるのか。

<八巻課長>はい。ただ、そういう生徒は休みも多かったです。もちろん、別室登校で全く休んでない生徒もおります。

<萩原村長>はい、他に何かありませんか。

<萩原村長>休んでいるのは精神的な病気なんだろうか。

<庄子教育長>具体的な理由というのは、例えば勉強がわからなくなってきたので、もう学校に行きたくないという子もいます。また、自分の性格が他と合わなくてなじめないという子もいます。あとは家庭の事情で行けないなど。

<渡邊委員>大衡村いじめ問題対策連絡協議会等設置条例が出来たので、ぜひとも早く設

置してもらいたいと思います。

<萩原村長>これはいつ条例化する予定ですか。

<早坂課長>12月定例会に上程する予定です。

<高橋職務代行者>これは原案そのままですか。

<早坂課長>そうなります。

<萩原村長>はい、どうぞ。

<鎌田委員>この条例の中で、これは大衡村におけるいじめ防止が目的なんですよ。そうしたときに、定期的に任命された人たちを招集するような形になっていくんでしょうか。いじめが起きた時もありますが、いじめを防止することが目的なんじゃないでしょうか。「大衡村におけるいじめ防止等のために設置する組織に関し、必要な事項を定めるものとする。」とあるんですけど、いじめが起きた時だけじゃなく、起きない時にも開催する、未然に防止するためにも開催するということですよ。

<庄子教育長>5ページの第2章に大衡村いじめ問題対策連絡協議会があります。これは今まではありませんでした。小学校、中学校合同で「いじめ防止対策委員会」を開催していました。今後は、大衡村教育委員会が主催します。第3章、第4章については、先ほど課長から説明がありました通り、重篤な問題が起きてしまった場合、調査委員会が設置されます。それでも保護者等が納得いかない場合は、再調査委員会が動くというふうな内容になっております。2章については大衡村の関係の方でいいと思いますが、3章、4章については第三者の方が入っていただかないとなかなかうまくいかないと思っています。定期的にやるかどうかはつきましては、2章については定期的に行います。

<萩原村長>はい、この問題は間口が広く、奥が深いということでもあります。
ここからは教育長が座長となって進めていただきたいと思います。

<庄子教育長>それでは、(3)大衡村いじめ問題対策連絡協議会等の設置についての条例についてお話しをしましたが、その他にご質問等ございませんか。

<渡邊委員>連絡協議会は15人以内となっていますが、調査委員会と両方、掛け持ちで
きるんですか。

<八巻課長>同じ人は入りません。

<渡邊委員>調査委員会には弁護士は依頼するんですか。それは村で委嘱している弁護士
を頼むんですか。

<八巻課長>まだ決まっています。

<渡邊委員>弁護士はよく考えて選んでほしい。どちらかに偏った弁護士だとうまくいか
ない。

<庄子教育長>まだ選考していませんけれど、今お話のありましたように弁護士は入らな
ければなりませんし、大学の教授や、人権団体の方を選ぶことになるんだ
ろうと思います。
よろしいですか。

<全員>意見なし。

<庄子教育長>この方向で進めさせていただきたいと思います。
以上で協議事項については終わりにしますが、何かその他はございません
か。

<早坂課長>事務局からは特にありません。委員の皆さんから何かございませんか。

<庄子教育長>では、委員の皆さんからその他、何かありませんか。
今年の8月20日付けで一般財団法人日本教材備品協会というところから
文書が入りました。平成23年度に文部科学省が教材整備指針を発表し、
平成24年から単年度で800億円を措置しました。これは、地方交付金
として措置されております。総合教育会議の中で協議していただき、教育
行政の大綱の中に次の学習指導要領に向け、教材整備計画を位置づけるな
どして、学校教材の安定的かつ計画的な整備をより一層推進していただき
ますようお願い申し上げますという内容でした。これは文部科学省ではな
いですが、学校から要望などを出していただいて備品を増やしておりま
す。全くやってない訳ではないのでご承知いただければと思います。

その他、ございませんか。

<全員>意見なし。

<庄子教育長>ないということで、皆さんのご協力で協議を終わらせていただきます。ありがとうございました。

<早坂課長>それでは、以上もちまして第1回大衡村総合教育会議を終了とさせていただきます。大変ありがとうございました。

4. 閉会

閉会時刻：午前11時10分

本議事録は事務局書記が記載したものであるが、その内容に相違ないことを証明するためここに署名する。

平成29年11月14日

大衡村総合教育会議出席者

大衡村長

萩原 達雄

教育長

庄子 明宏

教育長職務代行者

言橋 健正

教育委員

渡邊 勇

教育委員

鎌田 澄子

教育委員

齋藤 さと子